

川崎市グリーン・イノベーション推進方針 概要

I 推進方針の策定

1 背景

◎地球規模での環境問題

○地球温暖化をはじめとした環境問題は、地球規模で喫緊の課題

◎エネルギー問題

○東日本大震災を契機として、エネルギー問題への取組が重要
○国ではエネルギー基本計画の見直しや電力システム改革を検討

2 課題

◎環境問題・エネルギー問題等への対応

○川崎における持続型社会の実現、創エネ・省エネ・蓄エネの取組の推進
○本市の環境技術などを活かし、一層の革新的技術の開発・普及促進が必要

◎アジアの都市などにおける環境改善

○経済成長著しいアジアの都市などでは地球温暖化に加え、公害や廃棄物処理などの対策の推進が必要

3 本市の強みと特徴

◎環境技術・産業の集積

○低炭素・公害対策・資源循環・エネルギー等に係る環境技術・産業が集積

◎環境意識の高い事業者・市民

○環境意識の高い事業者や、地域で率先的な取組をしている多くの市民

◎これまでの「環境」と「経済」の調和と好循環の取組

○低CO₂川崎ブランドの認定や国際環境技術展の開催などの「環境」と「経済」の調和と好循環に向けた取組実績



(仮称)川崎市グリーン・イノベーション推進方針の策定

環境技術・産業を活かしたこれまでの取組を、経済労働局と環境局が中心となり、全庁的なグリーンイノベーションの取組として、より一層発展、拡大することで、次世代の川崎の活力を生み出すとともに快適な市民生活の維持、向上などにつながる持続可能な社会を創造

○課題解決に向けて、革新的技術の開発・普及に向けた取組を推進

○環境配慮行動が市民生活や事業活動に浸透する経済・社会のグリーン化

II 基本的な考え方

「環境技術・産業を活かしたサステナブル・シティの創造」

- (1) 環境技術・産業の振興により地域経済を活性化
- (2) 優れた環境技術・産業を市民生活に活用
- (3) 環境技術・産業を活かすために多様な主体と協働
- (4) 川崎の環境技術・産業を活かして国際社会に貢献

III グリーンイノベーション推進に向けた4つの柱

基本的な考え方に基づく取組の方向性として4つの柱を設定

1 環境技術・環境産業の振興

○環境関連企業の新たな取組や海外展開を支援し、今後さらに「川崎」の地域特性を活用・発展させて、地域経済の活性化を推進

2 優れた技術を活かす環境配慮の仕組みづくり

○優れた技術の普及を目指し環境配慮の仕組みを作り、その導入を誘導
○必要に応じて、国に規制緩和・規制改革などを要望

3 多様な主体の協働による環境技術を活かしたまちづくり

○多様な主体との連携・協働により環境技術を活かした社会を創造
○優れた環境技術を市民生活や事業活動、まちづくりに積極的に導入

4 環境技術を活かした国際貢献の推進

○川崎の強みと特徴である環境技術・産業の集積を活かし、地球規模で環境と経済の調和と好循環を進め、国際社会に貢献

IV 推進体制の構築

4つの柱となる取組を効果的に実施するため、体制・事業スキーム・情報など推進体制を構築

1 グリーンイノベーション・クラスターの構築

○事業者・関係団体などをつなぐクラスター（ネットワーク）の構築

2 多様な主体と連携したプロジェクトの展開

○公募による事業提案募集など多様な主体と連携したプロジェクトの実施

3 国際的機関との共同研究・事業の推進

○国連環境計画(UNEP)など国際的機関と連携したプロジェクト事業の推進

4 情報の共有・発信

○市が有する知見・ノウハウ、事業者が有する環境技術をパッケージで発信

5 リーディング・プロジェクトの実施

○波及効果が期待される取組をリーディング・プロジェクトとして実施

グリーンイノベーション推進に向けた4つの柱

I 環境技術・環境産業の振興

<これまでの取組>

- (1) 先端技術を有する環境関連企業・大学等の集積・エリアの形成
- (2) 環境関連製品・サービス・技術の創出による環境産業の振興
- (3) 企業間連携・産学間連携の推進による地域課題の解決に向けた取組
- (4) 起業家支援・ベンチャー支援
- (5) 海外展開支援

<課題>

- (1) 環境技術・製品の創出と販路開拓
- (2) スマートシティなど、まちづくりと連携した環境技術の創出
- (3) 多様な主体が交流し、情報交換ができる場の提供
- (4) 企業間・産学間連携の発展に向けたコーディネート機能の充実
- (5) 求められている環境技術のニーズ把握
- (6) 海外展開におけるカウンターパートの特性などを踏まえたマッチング

<推進方針>

- (1) 産業集積による川崎の強みと特徴を活かした新技術・新製品の創出
- (2) 多様な主体とのネットワーク等による、まちづくりと連携した環境産業の振興
- (3) コーディネート機能充実による環境産業支援の推進
- (4) 先進的で多様なエネルギー拠点である川崎臨海部の競争力強化と環境負荷低減に向けた企業活動の支援
- (5) 企業の環境技術と環境行政ノウハウのパッケージ化など海外技術移転の促進

III 多様な主体の協働による環境技術を活かしたまちづくり

<これまでの取組>

- (1) 低炭素社会の構築に向けた取組の推進
- (2) 自立分散型エネルギーシステムの構築の推進
- (3) スマートシティの推進
- (4) 循環型社会の構築に向けた取組の推進
- (5) 快適な生活環境の確保に向けた取組の推進

<課題>

- (1) 最先端の環境技術を活かした低炭素社会の構築
- (2) 創エネ・省エネ・蓄エネの総合的取組の推進
- (3) 環境エネルギー技術を活かした都市づくり
- (4) 民間事業者等の技術を活かしたリサイクルの推進
- (5) 民間事業者等の技術を活かした地域環境改善

<推進方針>

- (1) 低炭素社会の構築に向けた市民生活・事業活動における環境配慮の促進
- (2) 自立分散型エネルギーシステムの構築
- (3) スマートシティ戦略の推進
- (4) 環境技術を活かしたさらなるごみの減量及びリサイクルの推進
- (5) 環境技術を活かした都市・生活型公害への対応

II 優れた技術を活かす環境配慮の仕組みづくり

<これまでの取組>

- (1) ライフサイクル全体での低炭素な製品・サービス・技術の普及
- (2) 環境に配慮した製品・サービス・技術の率先導入
- (3) 開発行為における環境配慮
- (4) 建築物における環境配慮

<課題>

- (1) 構築した環境配慮の仕組みのさらなる活用
- (2) 社会状況・技術開発動向への対応

<推進方針>

- (1) 川崎メカニズムの認知度や低CO2川崎ブランドのブランド価値の向上
- (2) 環境影響評価制度、建築物環境配慮制度を活用した環境配慮の誘導
- (3) 本市が取り組んでいる環境配慮の仕組みの民間事業者等への展開
- (4) 社会状況・技術開発動向を捉えた新たな環境配慮の仕組みの構築
- (5) 国への規制緩和・規制改革等の働きかけ

IV 環境技術を活かした国際貢献の推進

<これまでの取組>

- (1) 本市の経験・環境技術の情報発信
- (2) 都市間連携の推進
- (3) 環境総合研究所を活用した取組の推進
- (4) 海外展開支援（再掲）

<課題>

- (1) 各々の国や地域の実情やニーズを踏まえた取組
- (2) 技術移転先となる国の特性などを踏まえたマッチング
- (3) 事業化に向け、多様な主体が一体となった取組
- (4) 多様な主体が交流し、情報交換ができる場の提供

<推進方針>

- (1) 都市間など地域連携の推進
- (2) 国際環境人材の育成・活用
- (3) 求められている技術の把握と技術移転先に適した環境技術の提案
- (4) 多様な主体との連携を促す事業スキームの構築
- (5) 情報共有を図るネットワークの構築